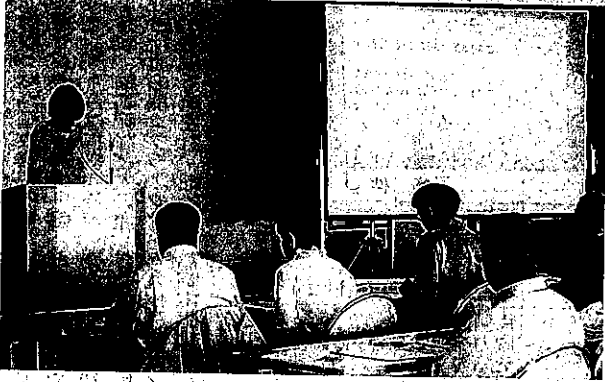


# 毎日新聞 孫育てに「イクジイ」奮闘

2011年(平成23年)8月14日(日)



父母世代を上手にサポートし、孫と仲良くなるコツを伝える「イクジイ養成講座」。祖母とも違う祖父のかかわる意味を確認した—東京都文京区で

夫婦共働き世帯の増加と保育施設の不足を背景に、「孫育て」するシニア世代が増えている。中でも注目はおじいちゃん、おばあちゃん。育児に主体的に取り組む父親「イクメン」が「イクジイ」(おじいちゃん)に「イクジイ(爺)」「ソフ(祖父)」「リエ」は広がるか。

【田村佳子、写真も】

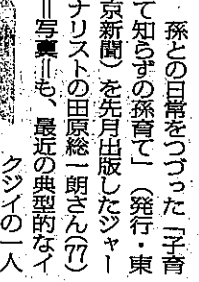
## 元 企業戦士、「初の育児」■共働き支援期待 養成講座も

東京都内のホールで6月、イクジイ養成講座「孫育て」が開かれた。参加したのは、若い孫を持つ男性たち。千葉県習志野市の佐藤敏明さん(70)は、5歳と1歳の孫の世話を娘に頼まれることが増えたのを機に、孫育てを学ぼうと思ったという。若いころは仕事一筋で、娘のおむつ一つ替えたことがなかった。「この前、うんちのおむつを替えて娘に感心された」と笑う顔がちょっと誇らしげだ。

この日の講座では、NPO法人「孫育て・ニッポン」の榎田明子理事長が、「今ドラッグが多いのは、嫁姑より娘と実母の佐藤敏明さん(70)は、5歳と1歳の孫の世話を娘に頼まれることが増えたのを機に、孫育てを学ぼうと思ったという。若いころは仕事一筋で、娘のおむつ一つ替えたことがなかった。」「この前、うんちのおむつを替えて娘に感心された」と笑う顔がちょっと誇らしげだ。

「イクメン」の増加に伴い、おじいちゃん、おばあちゃんも育児に主体的に取り組む父親「イクメン」が「イクジイ」(おじいちゃん)に「イクジイ(爺)」「ソフ(祖父)」「リエ」は広がるか。

## 余裕があるから客観的に対応できる



田原総一朗さん 出版された本 体験

孫との日常をつづった「子育て知らずの孫育て」(発行・東京新聞)を先月出版したジャーナリストの田原総一朗さん(77)と写真も、最近の典型的なイクジイの一人だ。

「戦後民主主義の二期生」という田原さんは「子どもへの面倒をみたり料理をしなければという意識はあったが、若い時は仕事にも生活にも全く余裕がなく、必死だった」と振り返る。イクジイが増えるのは、この世代に精神的、時間的ゆとりができたことが大きいと解説する。祖父がかかわる利点について「親は子育てに必死だから、叱る時は本当に頭にきて怒る。僕はそのゆとりがあるから、感情的には怒ることがない。叱るのは祖父の方がうまい」と、親世代になり「余裕」を幸ひる。子どもへの責任を直接負わないからこそ、客観的に状況を眺められるのだという。

孫育てを通して娘との関係も変化した。著書の巻末では、長女が「父が人のために行動する人だと、子供が生まれて気づいた」など父への思いをつづっている。「父娘の関係は今が一番濃密」と田原さん。孫世代の子どもたちには、「自分の頭で考えられるくらい美しい人間になってほしい」とのメッセージを送っていた。

「イクメン」の増加に伴い、おじいちゃん、おばあちゃんも育児に主体的に取り組む父親「イクメン」が「イクジイ」(おじいちゃん)に「イクジイ(爺)」「ソフ(祖父)」「リエ」は広がるか。

「イクメン」の増加に伴い、おじいちゃん、おばあちゃんも育児に主体的に取り組む父親「イクメン」が「イクジイ」(おじいちゃん)に「イクジイ(爺)」「ソフ(祖父)」「リエ」は広がるか。